

表 7 把握・見守り期の支援ツール

記入者： 作成： 年 月 日

把握・見守り期	
住民や関係機関等からの相談に応じて、課題の把握や本人に会うことを目標とする時期 ＊本人が支援を求めない場合でも、周囲に支援・対応していく	
本人への支援	☐ 1. 断続的に訪問して顔を覚えてもらい、信頼関係を築く
	☐ 2. 本人・家族が訪問の意図をどのように理解しているかを把握する
	☐ 3. 本人の心身の健康状態を把握し、受診の必要性がないかを見極める
	☐ 4. 本人の考えやこだわりを確認し、認知機能の状況を見極める
	☐ 5. 継続して関わりをもち、本人の困り事を把握する
	☐ 6. 本人の話から、家族・親族と本人との関係性を見極める
	☐ 7. 不在の場合は本人あてにメモ等を残し、反応をみる
	☐ 8. 訪問時間帯を変えるなど、本人に会えるよう時間を見計らい接触する機会をうかがう
	☐ 9. ライフライン（電話・電気・ガス・水道など）を確認し生活上のリスクを確認する
家族・親族への支援	☐ 10. 家族・親族から経過を把握し、本人との関係性等を確認する
	☐ 11. 家族・親族から本人の性格等の情報を得る
	☐ 12. 同居家族の心身のリスクの有無を把握する
	☐ 13. 家族・親族からキーパーソンとなる人物を探す
	☐ 14. 本人とコンタクトがとれない場合、同居の家族あてのメモを残す
近隣・地域住民に向けた支援	☐ 15. 本人および家族との接触が図れない場合は、関係のある別居親族の情報を得る
	☐ 16. 相談者（苦情者・通報者）に具体的な困り事を確認する
	☐ 17. 関わりのある近隣から本人の様子について情報を得る
家屋および家屋周辺状況等の現地確認	☐ 18. 本人と近隣住民との関係性を把握する
	☐ 19. 玄関先の放置物、害虫の発生、悪臭の有無等を確認する
	☐ 20. 庭の樹木の繁茂や近隣への影響の有無を確認する
	☐ 21. 堆積物の種類を確認し、病気や障害の可能性を推察する
	☐ 22. 食品の残骸・残飯のため込みから、低栄養等のリスクを見極める
	☐ 23. 敷地内の見取り図、近隣住居等の配置などを図示し記録する
	☐ 24. 放置物による放火や火災発生の危険性を推測する
関係機関との連携	☐ 25. 放置物による、公道・私道の通行上の危険の有無を確認する
	☐ 26. 関係機関へ、本人・家族・親族への支援・対応歴を確認する
	☐ 27. ケース会議により情報を共有し、支援の方向性を協議する
	☐ 28. 市区町村の担当課へ情報提供し、支援の協力を依頼する
	☐ 29. 同居家族の心身のリスクについて情報を把握し、必要なサービスを検討する
	☐ 30. 該当住居が空き家の場合には、市区町村の担当課へ連絡を行う